

PRESS RELEASE

2021年9月吉日
川崎市岡本太郎美術館



The Origin of Japanese Design
Movement After WWII
Taro Okamoto Museum of Art,
Kawasaki

展覧会概要

戦後の復興からまもない1950年代の東京。ようやく人々の暮らしの中に、家具や道具のデザインへの意識が少しづつ広がりはじめる時期に、「国際デザインコミッティー」(現・日本デザインコミッティー)は、戦後日本のデザイン運動の先駆けとして、国際交流やデザインの啓蒙を目的に創立されました。

きっかけは、1953年にイタリアから届いた一通の招待状。この「第10回ミラノ・トリエンナーレ」への参加要請に応えるべく集ったのが、建築家の丹下健三や吉阪隆正、清家清、デザイナーの剣持勇、柳宗理、渡辺力、亀倉雄策、評論家の勝見勝、浜口隆一、瀧口修造、写真家の石元泰博、そして画家の岡本太郎でした。

顧問には、坂倉準三、前川國男、シャルロット・ペリアンが名を連ね、時代をリードする多彩なジャンルの人々が顔を揃えました。

No.1



「グッドデザインコーナー」のための選定会風景、1955年頃
左から、吉阪隆正、鹿子木健日子、剣持勇、渡辺力、瀧口修造、岡本太郎、柳宗理
写真提供：日本デザインコミッティー

No.2



1955年当時の松屋「グッドデザインセクション」売場風景

写真提供：日本デザインコミッティー

「ミラノ・トリエンナーレ」への参加は、次の第11回展(1957年)に実現しますが、むしろ彼らの活動の軸となっていったのは、東京銀座の百貨店「松屋」の一画に設けられた売場に置くための商品選定と、併設の「デザインギャラリー」や催事場で行われた展覧会を通じたデザインの啓蒙でした。通産省のGマーク「グッドデザイン商品選定制度」(1957年)に先んじて、百貨店という身近な舞台で始められたグッドデザイン運動は、ひろく人々の間に定着し、「日本デザインコミッティー」と改称された現在もなお、活発な活動が展開されています。

本展では、「デザインコミッティー」の活動と創立メンバーとの交流に焦点を当てるとともに、そこから生まれたコラボレーションにも注目します。柳宗理《バタフライスツール》や森正洋《G型しようゆさし》といった時代を代表するプロダクトとの繋がり、そして旧東京都庁舎(1957年)、香川県庁舎(1958年)、世界デザイン会議(1960年)、東京オリンピック(1964年)での協同。彼らが闊達な交流のなかで切り拓いた仕事の広がりと、デザイン・建築・美術など多領域を軽々と横断していく自由さは、転換期となる今の時代を突破する糸口になるかもしれません。

お問い合わせ

川崎市岡本太郎美術館 展覧会担当：佐藤(玲)、出口 広報担当：森近(pr@taromuseum.jp)

〒214-0032 神奈川県川崎市多摩区桙形7-1-5 生田緑地内

TEL:044-900-9898 / FAX:044-900-9966

開催概要

展覧会名 「戦後デザイン運動の原点—デザインコミッティーの人々とその軌跡」展
 The Origin of Japanese Design Movement after WWII: The Tracks of Design Committee

会 場 川崎市岡本太郎美術館 企画展示室

会 期 2021年10月23日(土)～2022年1月16日(日)

開館時間 9:30～17:00(入館は16:30まで)

休 館 日 月曜日(1月10日を除く)、11月4日(木)、11月24日(水)、
 12月29日(水)～1月3日(月)、1月11日(火)

観 覧 料 一般1,000円(800円)、高・大学生・65歳以上800円(640円)
 中学生以下 無料／()内は20名以上の団体料金

主 催 川崎市岡本太郎美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会

協 賛 ライオン、DNP大日本印刷、損保ジャパン、日本テレビ放送網、天童木工、堀内カラー

特別協力 日本デザインコミッティー

協 力 松屋、多摩美術大学アートアーカイブセンター

助 成 芸術文化振興基金

同時開催 常設展「生誕110周年 ベラボーな岡本太郎」 会期10月15日(金)～2022年1月16日(日)

※開催期間等、変更になる場合がございます。最新の情報は当館ホームページにてお知らせいたします。

No.3



柳宗理 《バタフライツール》(初期型)
 1956年、柳工業デザイン研究会蔵

No.4



森正洋 《G型しおゆさし》1958年、
 有限会社デザインモリコネクション蔵

No.5



丹下健三計画研究室(制作:神谷宏治+日大川
 岸研究室)《香川県庁舎(1958年)模型》
 2013年、香川県立ミュージアム蔵

No.6



来日の際に岡本邸を訪れたヴァルター・グロピウス、1954年
 左から岡本太郎、グロピウス、一人おいて剣持勇、柳宗理、渡辺力

No.7



岡本太郎《建設》1956年、川崎市岡本太郎美術館蔵

みどころ

- 通産省の「Gマーク」制度(1957年)にさきがけて始められた、知られざる、戦後日本のデザイン運動の原点ともいべき活動を紐解くもの。
- 日本のミッドセンチュリーを代表するプロダクトデザインと、「デザインコミッティー」との関わりをエピソードとともにご紹介。
- 個性ゆたかな創立メンバーの顔ぶれとその交流に注目し、そこから派生した同時代のデザインや建築の動きのなかで、「デザインコミッティー」が果たした「サロン」としての役割にも注目。
- コミッティーのメンバーが企画を行う「デザインギャラリー」の展示のうち、第1回「わたしの好きなデザイン」展(1964年)と、イサム・ノグチを取り上げた第4回「あかり」展(1964年)、石元泰博の写真展となった第24回「桂」展(1966年)に注目し、部分的な再現展示も行う。

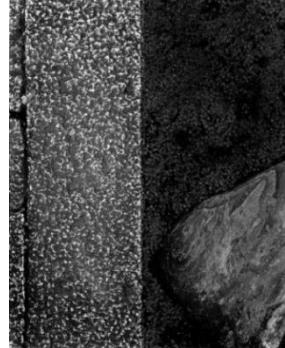
※企画展の写真・動画撮影不可

No.8



シャルロット・ペリアンとコミッティーメンバーら
左から一人おいて渡辺力、岡本太郎、吉阪隆正、ペリアン、
坂倉準三、柳宗理

No.9



©Kochi Prefecture, Ishimoto Yasuhiro Photo Center
石元泰博《桂離宮 御輿寄前庭 延段と飛石》1953,54年、
高知県立美術館蔵

展示構成(予定)

- 1章 デザインコミッティー創立 ー前夜と交流
- 2章 国際交流とデザインの普及 ーミラノ・トリエンナーレとグッドデザインコーナー
- 3章 サロンとしてのデザインコミッティー
- 4章 デザインギャラリーの展開

主な出品作品(予定)

絵画、写真、プロダクトデザイン、家具、建築模型、図面、資料ほか 約220点

その他、関連イベントは当館ホームページで随時お知らせします。<https://www.taromuseum.jp>

※新型コロナウイルス感染拡大対策のため、開催内容が変更となる場合がございます。

詳細は当館ホームページで随時お知らせいたします。川崎市岡本太郎美術館ホームページ <https://www.taromuseum.jp>

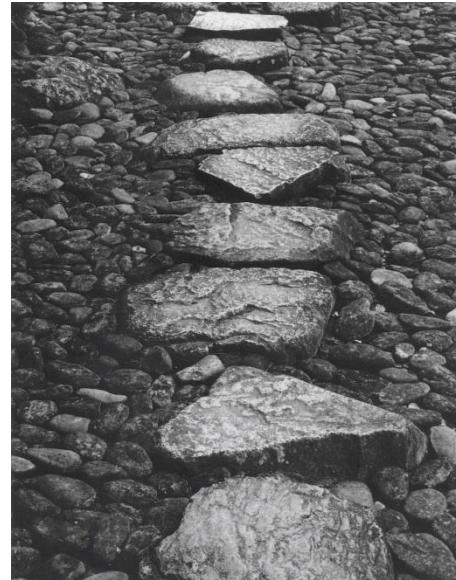
「戦後デザイン運動の原点—デザインコミッティーの人々とその軌跡」展

No.10



「第11回ミラノ・トリエンナーレ」会場風景、1957年、
国立近現代建築資料館蔵

No.11



©Kochi Prefecture, Ishimoto Yasuhiro Photo Center
石元泰博《桂離宮 洲浜の飛石》1953年、高知県立美術館蔵

No.12



坂倉準三建築研究所(担当:長大作)
《低座椅子》1960年、株式会社天童木工蔵

No.13



渡辺力《ヒモイス》1952年、
株式会社メトロポリタンギャラリー蔵

No.14



岡本太郎《坐ることを拒否する椅子》1963年、
川崎市岡本太郎美術館蔵

画像のご使用の際には、必ずキャプション・クレジットをご明記くださいますよう、お願いいたします。

お問い合わせ

川崎市岡本太郎美術館 展覧会担当:佐藤(玲)、出口 広報担当:森近(pr@taromuseum.jp)

〒214-0032 神奈川県川崎市多摩区桙形7-1-5 生田緑地内

TEL:044-900-9898 / FAX:044-900-9966